



第一問 次の問いの語句の意味としてもっとも適切なものを、後の①～③の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

〔問一〕 一知半解

1

- ① 一つのことを知ること、半分程度は理解できること。
- ② 少ししか分かっておらず、十分に理解していないこと。
- ③ 言葉足らずでは、十分な理解を得ることはできないこと。

〔問二〕 虎視眈眈

2

- ① 万全の防御を取れるように身構えている様。
- ② 敵や相手のすきをねらって形勢をうかがっている様。
- ③ 都合の良い方向に向かわせようと周囲を威嚇する様。

〔問三〕 気が置けない人

3

- ① 信頼関係を築くことができない人。
- ② 気を使う必要がなく、気軽に付き合える人。
- ③ 周囲に余計な心配をかけさせない人。

〔問四〕 青天の霹靂<sup>へきれき</sup>

4

- ① 想定を超える成果をあげること。
- ② 油断していたところにつけこまれること。
- ③ 予想外の出来事が、突然起こること。

〔問五〕 煮詰まる

5

- ① 十分に議論が尽くされ、結論を出せる段階にあること。
- ② 意見が多数出されて、收拾がつかない状況であること。
- ③ 考えがまとまらず、先に進めない状態であること。

〔問六〕 口を拭う

6

- ① 失敗や過ちを潔く認め、償うこと。
- ② 都合の悪いことがあっても、気にならない様子でいること。
- ③ 悪いことをしていながら、知らぬふりをすること。

〔問七〕 出端をくじく

7

- ① 物事を始めた早々に邪魔が入るなど中断を余儀なくされること。
- ② 初心の意気込み、やる気をすぐさま喪失してしまうこと。
- ③ 何かを始めた途端に失敗してしまうこと。

〔問八〕 血が騒ぐ

8

- ① 気持ちが高ぶって、じっとしていられなくなること。
- ② 行動を促す衝動を抑えて、じっと耐え忍んでいること。
- ③ 理不尽な状況に直面し、怒りの感情が沸き起こること。

〔問九〕

ベーシックインカム

9

- ① 年齢・性別などに関係なく、すべての個人に無条件で一定の金額を定期的に支給する制度のこと。
- ② 生活困窮者に対して健康で文化的な生活を保障する金額を支給する制度のこと。
- ③ 最低賃金審議会において地域の実情に踏まえて定めた最低賃金体系のこと。

〔問十〕

ナショナリズム

10

- ① 民族主義。
- ② 自然主義。
- ③ 平和主義。

第二問 次の問いに答えなさい。

〔問一〕 次の文の傍線部について、日本語の表現として不適切な部分を含むものを、①～③の中から一つ選び番号をマークしなさい。ただし、不適切なものがない場合は④をマークしなさい。

(1) 入社面接で、「自分が最も辛かったのは、①、②、③と答えた。」  
① 自分が最も辛かったのは、②、③と答えた。 ② 大学一年時の夏のクラブ合宿です。 ③ 炎天下の走り込みは忘れられません。

11

(2) ① 昨夜のニュースで知ったのだが、②、③。  
① 昨夜のニュースで知ったのだが、②、③。 ② 日本の優秀な警察でさえも、③、④に未解決の事件がいくつかあるらしい。

12

(3) ① せっかく屋上に上ったのに、②、③。  
① せっかく屋上に上ったのに、②、③。 ② 隣のビルが邪魔になって、③、④がよく見れなかった。

13

〔問二〕 ある物一つとそれを数える際につける助数詞の組み合わせのうち、①～⑤の中から一つ選び番号をマークしなさい。

- ① 投票—一票    ② 人形—一体    ③ トンネル—一基    ④ ぶどう—一房    ⑤ 和歌—一首

14

〔問三〕 次の①～⑥の下線部の漢字について、適切に使われているものを一つ選び番号をマークしなさい。

15

- ① 太陽が表れた。    ② 壁に影が写る。    ③ 性格が対称的な兄弟。  
④ 勝利を治める。    ⑤ 名義を書き代える。    ⑥ 地域社会に溶け込む。

### 第三問 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

時の流れはあらゆるものを捕え、押し流してやまない。これほど強力なものはないであろう。万物は人を除いては、この時の流れを感じとる能力を持たない。植物はただ、時に順応して花を開き、葉を茂らせ、やがて枯れて行く。動物もまた時にしたがって食い、ふとり、発情し、絶えていく。 ……【①】

ただ人のみが、時の流れを観念として感じとる。そればかりでなく、時の流れを変え、さかのぼるはかない努力をさえする。昼に夜をつくり、夜を昼とし、冬に夏の果物を愛で、夏に冬の野菜を味わったりする。

七日という天体の運行にもその他の自然の周期にも、全然関係のない人為的周期を作り出して、生活をそれに合わせたりする。しかし、時の力は人にさえ例外ではあり得ない。

人が感じ取る時という観念は、完全に抽象的であり、間接的である。この時の観念の中味、本質のわかりにくさはどうであろう。そのうえに人によって、またその時その時によって感じ方それ自体さえ変わるのだから一層厄介である。 ……【②】

しかし、「A」としてではあるが、万人に何となく共通な時の観念はある。われわれの先人は進んでこの時の流れに植<sup>さ</sup>しながら、それを定義し、測る方法を実に長年月を費やしたあげくにおぼえたのである。

時とともに自然界のあらゆるものは容<sup>ゆる</sup>なく変遷を余儀なくされる。人は時そのものを直接にはなく、この変遷を見ることにより感じとるのである。このため古代に始まり現代にいたるまで、時は自然現象の周期によって定義され測られてきたのである。 ……【③】

静かに雨の降っている日、何気なく軒さきを見ると、雨の水が少しずつ集まって、ふくれやがて球になって離れる。そして土にうがった小さいくぼみの水たまりをパツとはねとばす。また少しの間において同じことがくり返される。素朴な周期現象がこんなところにもある。

古代未開の人類を考えてみよう。昼と夜のくり返しは、これ以上のものではないほどはつきりした周期現象である。暗いが故の不便さ。物の怪<sup>け</sup>がまわりを取り囲んでいると感ずる怖れ。猛獣のしのび寄る危険に対する警戒。やがて夜が明けると、活力に満ちて野に山に獲物を追う一日が始まる。彼等は長い夜につづいて朝が来、昼のあとにはまた夕となり夜が訪れることを、信じて疑わなかったであろう。

しかし、そのためにこの周期が時の観念を生んだかどうかは、やや疑問がある。われわれがどうしても空気のありがた味を実感として感ずるこ

とがないように、あまりにも周期が短く、正確で、あまりにも鮮やかな対シヨウである昼と夜とのくり返しを、周期現象としては見失ってしまったとも考えられるのである。

周期というものの発見、したがって時の観念の芽生えは、むしろ月の満ち欠けからと見るほうが妥当であろう。

細く美しい三日月が宵の西空に現われてから、日ごとに月は育っていき、夜空に長く残るようになってくる。やがて昼をあざむく満月となり、次にはだんだんとやせ細り、出が遅れ、最後に月のない夜にもどる。

この二九日半という周期は、月に無関心の人にはあまりにも長過ぎるかもしれない。実際、今の大都市に住むほとんどの人が、月を見る機会さえ恵まれないでいる。したがって、真冬の夕の三日月のスルドさ<sup>(3)</sup>、春のおぼろの上弦の月、すすきに注ぐ満月の光、四季折々の月の相の神秘さ、美しさにはほとんど無縁の人となり果てている。

しかし、いま考えている古代人はちがう。

日本でも宵待ち、居待ち、立ち待ち、寝待ちなどという奥床しい言葉が平安時代に使われた。ただしこの場合は夜への怖れから月を待望するのではなく、待つ人への慕情を月に託したものと解すべきであろう。しかし、昔の人の月に寄せた関心は、現代人とは比較にならぬほど深かったということは事実であろう。

とにかく、月の満ち欠けという相の変遷を古代人は真剣に観察し、記録し、そこから時の観念をつかむことができたとともに、一歩進んでそれによって時を記録する知恵をも学びとつたものと考えられる。それがすなわち暦（こよみ）である。その証拠にはほとんどすべての古代暦は、月の運行にもとづく太陰暦であることからうかがえるのである。

月へのあこがれ、月への関心は古代人によって多くの月に関する物語や伝説を生み出した。文学にも月は大事な点景として入り込んでいった。月への関心がこよみを生むものになったわけであるが、やがて時代が経って人の知恵が進み、農耕や牧畜のような「B」な生産の時代へ移ると、月ばかりを頼りにする太陰暦の不便さが身にしみてきて、関心が季節、すなわち太陽の運行へと向けられ、次第に月は見捨てられてしまう。

月は単に興味の尽きない問題を提供する天体として、天文学における研究の対象としてのみ観察されるにとどまることになった。

そして現代。精密な科学の要求は暦表時という時系を生み出し、それを決める手段としても月の精密な観測が必要となった。

…〔⑦〕

…〔⑥〕

…〔⑤〕

…〔④〕

こよみは長い時間を記録したり、予想したりする手段として古代人が身につけた知恵である。

こよみよってのみ、過去と現代とを結びつけることができるし、また未来の約束をかわしたり、計画をたてたりすることができる。現代人の生活にも絶対に無くてはならぬもの、日常きわめて無視されていながら、その実この上なく大切なもの、ということができらるであろう。 ……【⑧】

古代人にとつては、狩りの好期を教えるもの、種子まきの適期を知らせるものとして、おそらく何千年もの間の経験が育てた科学の第一歩であろう。

こよみは単に食生活に直結する目的のためばかりではない。どの民族にも必ず存在した天体崇拜や狩りの祈り、みのりの感謝、それに死に対する恐れからおこった宗教の儀式との結びつきも見逃すことはできない。現代のわれわれにとつて、何の縁もない祭りや祝いの日にくることも古代人にとつては、生活の一面であつたはずである。

このようにして、こよみは一方は天体運行に結びついて「C」に作られながら、一方は宗教によつて時には「整形」され、時には無意味にゆがめられてきたのである。

現在、われわれが使っているこよみも月名に古代ローマの神々や、祭りの名が保存されているし、本来、天体の運行に何の関係もないヘブライ民族の習慣である週という七日の周期が、そのまま生かされて現代生活の重要な基盤となつてゐる。

現在のこよみの元旦が季節からいつて何の意味も持たない所に置かれてゐるのも、その原型である古代ローマ暦の「D」によるもので、それをキリスト教が復活祭という祭りの位置づけのために不動のものにしてしまつたものである。

現在のこよみには「E」迷信は入つてゐない。しかし、説明のつかない不合理さがかなり残つてゐるのは、古代民族の習慣がそのままつづけられたためにほかならない。現行暦に対する合理化案として世界暦案の提唱が、今世紀に入つて何十種類という程行なわれたが、いずれもほとんど問題にされずに消えていつた。不合理は不合理と知りつつも、長年の身についた習慣は容易には捨てられないものである。

こよみの法則つまり暦法で厄介な問題は、天体の運行周期を決定する問題と、端数処理の問題で、共に古代人にとつて頭の痛いことであつたにちがいない。

正確な天体の運行周期を決定するには、精密な観測のつきかさねによる以外に方法はない。「F」古代民族はいずれもその時代に応じて、あるいは素朴、簡易な、あるいは壮大、精巧な観測装置を考案して正確な暦法を確立するために努力した。

日本でも編暦の実権が京の暦博士土御門家の無能から徳川幕府に移って後、江戸に相ついで編暦の基礎のための観測をつかさどる天文台が建てられた。

渋川春海が本所二つ目に地所をたまい、天文台を建てたのは元禄二年（一六八九年）で、これが徳川幕府による公立天文台の最初である。この地所は低地にあつて水害をたびたび受けたので、後に駿河台に移転した。

八代將軍吉宗は自身、天文・暦学を学び、西川正休らを天文方に命じて、編暦に当たらせた。一七四六年神田天文台がそのために建設された。一七六五年には牛込天文台が建てられた。一八四二年、九段天文台が開設された。

他に、伊能忠敬が私邸に開いた私立天文台がある。一七九五年建設された深川天文台がそれである。観測結果にもとづき、有名な大日本輿地図作成の大事業が完成したのである。

もう一つの問題、端数処理の問題とは、天体の各周期の関係をどのように扱うかということである。地球の自転、公転、月の公転はいずれも互いに無関係独立の回転運動なので、それらの間の関係をうまい整数比で表わすような時の単位はまったく存在しない。

（虎尾正久『時とはなにか―暦の起源から相對論的“時”まで―』）

〔問二〕

傍線部(1)～(3)のカタカナを漢字で書いたとき、後の①～④の傍線部に同じ漢字を含むものをそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) シヤ ① シ|シヤ|会に行く ② 代表してシ|ヤジ|を述べる

③ シ|ヤ|に構えた態度 ④ オ|ンシヤ|による免罪

(2) ショウ ① ウ|ゾウ|ムゾウ ② ア|キナ|い始める

③ デ|ータ|とテ|らし合わせる ④ 自|分の|行|いをカ|エ|リ|みる

(3) スルド ① 古|文|の|エイ|タン|の表現 ② エ|イ|イ|努力|いたします

③ ト|ワ|の|眠|りに|つく ④ オ|モ|カ|ゲ|があ|つて|懐|かしい

〔問二〕

本文中の空欄「A」～「F」にあてはまるもつとも適切な言葉を後の①～④の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

〔A〕 ① 漠然 ② 歴然 ③ 忽然こつ ④ 整然

〔B〕 ① 積極的 ② 包括的 ③ 経済的 ④ 非効率的

〔C〕 ① 非論理的 ② 純科学的 ③ 不可逆的 ④ 無意識的

〔D〕 ① 打算 ② 配慮 ③ 計略 ④ 不備

〔E〕 ① むしろ ② とどのつまり ③ さすがに ④ 必ずしも

〔F〕 ① たとえば ② しかし ③ あるいは ④ そこで

24

23

22

21

20

19

18

17

16

〔問三〕

次の(1)・(2)の文は、本文中の【①】～【⑧】のいずれかの段落内から抜き出したものだが、元に戻す段落としてもっとも適切な箇所を一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 彼等にとって、夜は恐怖そのものであったから、月こそ大きな恵みであり、救いであったにちがいない。

25

(2) こうして月は時の問題に姿をかえて再登場することになるのである。

26

〔問四〕

本文で述べていた「時」の説明として合うものを後のA～Gの中から選んだ場合、その組み合わせとしてもっとも適切なものを次の①～⑧の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

27

- A 時の流れはあらゆるものを捕らえ押し流してやまない。そこにあらがおうとする生物はいない。
- B 曜日や月に天体や神の名がついているが、一週間の周期が七日であることと天体の運行には特に関係はない。
- C 時の流れを感じる事ができるのは人だけである。ただ、人によって、状況によってその感じ方は変化する。
- D 人は、空腹感や睡眠のサイクル、身長や体重の変化など自分の身体変化によって時を感じられる点が他の動物と違う。
- E 古代から人は時の確な定義や測る方法を探り多くの時間を費やしてきたが、いまだに本質を理解できたとは言えない。
- F 狩りの好期や種子まきの適期を知らせて有益だった時代には暦は重宝したが、現代では一部の人に使われている程度だ。
- G 時そのものを見たり聞いたり感じ取ることは不可能である。人は、観念として時の「流れ」を具体的に感じ取るものだ。

- ① A・B・C                      ② B・C・D                      ③ C・D・E                      ④ D・E・F
- ⑤ A・D・F                      ⑥ B・C・E                      ⑦ D・F・G                      ⑧ E・F・G

〔問五〕

傍線部 a 「流れに棹さしながら」とあるが、「流れに棹さす」の意味としてもっとも適切なものを次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 世間の風潮に乗り切れずに、立ち止まっただけで孤独であること。
- ② 全体の傾向に逆らって、その勢いを止めるような行動をとること。
- ③ 傾向に乗って、物事の勢いが増してより前に進むようにすること。
- ④ 不本意ながらも全体の流れに無理に合わせていこうと努めること。

28

〔問六〕

精密な天体の観測によって生まれたものとは、暦と何か。もっとも適切なものを次の①～⑧の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 天文台
- ② 地図
- ③ 狩りの祈り
- ④ 古代ローマの神々
- ⑤ 文学
- ⑥ 迷信
- ⑦ 農耕と牧畜
- ⑧ 「宵待ち」という言葉

29

〔問七〕

正確な暦を確立するのに妨げとなったものとしてもっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 科学的な判断と伝統的生活習慣のずれ。
- ② 徳川幕府による研究の制約と複数回の水害。
- ③ 民族ごとに伝説、神話、崇拜の対象が異なる点。
- ④ 天体の運行周期を決定する問題と端数処理の問題。
- ⑤ 基盤が統一されていない現代人の生活と様々な価値観。

30

〔問八〕

月を基準とした暦が使われなくなっていった理由としてもっとも適切なものを次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

31

- ① 農業をする人が多数だった時代には便利だったが、それ以外の仕事をする人が大勢になると太陽暦の方が便利だから。
- ② 自ら生産して生活する程度に知恵が進む時代になると、太陰暦は不便となり、太陽の運行や季節へと関心が移っていったから。
- ③ 夜に月の美しさや満ち欠けに恋心を重ねた時代から、想う人との昼間中心の生活が一般化して太陽が時間軸となったから。
- ④ キリスト教が世界的に広まった際に元旦から始まる太陽暦も同時に伝わり、人々の生活に馴染んで浸透していったから。

〔問九〕

次の(1)～(4)について、本文と異なる内容が含まれている場合には、その箇所を①～④の中から一つ選んでマークしなさい。①～④のすべてが本文の内容と合う場合には「⑤」をマークしなさい。

(1) 曆は、天体の動きにもとづいて作られており、その点では科学的知見の成果であると言える。その一方で、宗教によって無意味にゆがめられたという一面もある。長年人々の生活の中に曆は根付いているため、説明がつかない点が残ってはいるが、世界で統一の新たな曆を作ってそれを採用しようという動きが受け入れられることはないようだ。

32

(2) 古代の人類に、時という抽象的で間接的な観念が芽生えたのは、自然界の変遷がきっかけであると考えられる。昼と夜のくり返しや降っていた雨が止んだときなど、日常の中にありふれた自然の周期性を人々が発見した。そして、月の観察の記録と科学の知識を組み合わせることで太陽曆が完成した。曆は人々の食生活を豊かにし、後に宗教儀式とも結びついていった。

33

(3) 現代のわれわれが使っている曆には古代人の習慣の名残が数多く見受けられる。月の名前に神々や祭りの名が保存されている点、キリスト教の復活祭の位置づけのために元旦が季節からいって特に意味もない所にある点がそうである。現在の視点で見ると不合理な点が存在するのは、ヘブライ民族の習慣の名残を強引に現代流にアレンジしたことが原因である。

34

(4) 闇の中で物の怪に取り囲まれる怖れや猛獣に対する警戒などで死をも意識する、そのぐらい古代の人々にとって夜とは、大きな恐怖に耐える時間であった。そのような中で月の光は周囲を見渡せる安心をくれ、美しく、救いであったにちがいない。待ち人への想いを表す言葉や、物語や伝説も多く生み出されたことから、現代人よりも月への関心が強かったことが窺える。

35

2025 国語 短大 一般選抜B日程

100

番号	正解	配点
1	2	2
2	2	2
3	2	2
4	3	2
5	1	2
6	3	2
7	1	2
8	1	2
9	1	2
10	1	2
11	1	3
12	3	3
13	3	3
14	3	3
15	6	3
16	4	3
17	3	3
18	2	3
19	1	3
20	1	3

計 50

番号	正解	配点
21	2	3
22	4	3
23	3	3
24	4	3
25	5	3
26	7	3
27	6	5
28	3	3
29	2	4
30	4	4
31	2	4
32	5	3
33	3	3
34	4	3
35	5	3
36		
37		
38		
39		
40		

計 50

一般選抜 B 日程 解 説  
短 大 国 語

第一問

- 〔問一〕 一知半解 少ししか分かっておらず、十分に理解していないこと。 正解②
- 〔問二〕 虎視眈眈 敵や相手のすきをねらって形勢をうかがっている様。 正解②
- 〔問三〕 気が置けない人 気を使う必要がなく、気軽に付き合える人。「気が置けない」とは「気遣いがいらない」という意味。 正解②
- 〔問四〕 青天の霹靂<sup>へきれき</sup> 予想外の出来事が、突然起こること。晴れた空に突然起こる雷の意味から、思いもかけなかった突発的なできごとが起こること、衝動的なことが突然自分の身にふりかかることをいう。 正解③
- 〔問五〕 煮詰まる 十分に議論が尽くされ、結論を出せる段階にあること。 正解①
- 〔問六〕 口を拭う 悪いことをしていながら、知らぬふりをする。 正解③
- 〔問七〕 出端をくじく 物事を始めた早々に邪魔が入るなど中断を余儀なくされること。 正解①
- 〔問八〕 血が騒ぐ 気持ちが高ぶって、じっとしていられなくなる。 正解①
- 〔問九〕 ベーシックインカム 年齢・性別などに関係なく、すべての個人に無条件で一定の金額を定期的に支給する制度のこと。 正解①
- 〔問十〕 ナショナリズム 民族主義。 正解①

第二問

- 〔問一〕
- (1) 「自分が最も辛かったのは」 「自分は (は)」とする表現はよくみられるが、口語表現である。住職面接などの公式の場面では「自分→私」と表現する方がふさわしい。 正解①
- (2) 「いまだに未解決の事件」 「未解決」の語そのものに「未<sup>いま</sup>だに」という意味を含むため、重複した表現になる。強調する意味合いで使われやすいが誤りである。 正解③
- (3) 「花火がよく見れなかった」 いわゆる口語の「ら」抜き言葉となっている。正しくは「花火が見られなかった」となる。 正解③
- 〔問二〕 トンネルは「一本」と数える。 正解③
- 〔問三〕 ① 太陽が表れた。→ 太陽が現れた。  
「表れる」は、気持ちや感情、性質などが外に出るという意味で使われることが多く、「現れる」は、実際に目に見える形で存在が確認できる場合に使われる。
- ② 壁に影が写る。→ 壁に影が映る。  
「写る」は、写真や映像として記録されるという意味で使われ、「映る」は、光や影、映像が反射して見えるという意味で使われる。

③ 頭の回転が早い。→ 頭の回転が速い。

「早い」は基準となる時期や時間があり、それよりも前であるという場合や「簡単なこと、てっとり早いこと」、「時間を置かずすぐになにか行うこと」に対して使う。「速い」は動作や進み方がはやい場合に使用する。

④ 勝利を治める。→ 勝利を収める。

「治める」は国や地域や集団を統治するという意味で使われ、「収める」は目的を達成するなど成果を得るという意味で使われる。

⑤ 名義を書き代える。→ 名義を書き換える。

「代える」は置き換える、代用するというニュアンスをもつ。「書き換える」は既存の内容を修正して新しい内容に変更するという意味で使われる。名義の内容を修正・変更する行為を表すので「書き換える」が正しい。

⑥ 地域社会に溶け込む。正しい。

正解⑥

### 第三問

#### 〔問一〕

- |       |        |      |      |      |     |
|-------|--------|------|------|------|-----|
| (1) 赦 | ① 試写   | ② 謝辞 | ③ 斜  | ④ 恩赦 | 正解④ |
| (2) 照 | ① 有象無象 | ② 商  | ③ 照  | ④ 省  | 正解③ |
| (3) 鋭 | ① 詠嘆   | ② 銳意 | ③ 永遠 | ④ 面影 | 正解② |

#### 〔問二〕

- |       |      |     |       |     |     |
|-------|------|-----|-------|-----|-----|
| [ A ] | 漠然   | 正解① | [ B ] | 積極的 | 正解① |
| [ C ] | 純科学的 | 正解② | [ D ] | 不備  | 正解④ |
| [ E ] | さすがに | 正解③ | [ F ] | そこで | 正解④ |

#### 〔問三〕

- (1) 「彼等」が誰を指すのかを考える。月のない闇夜に不安を感じた古代の人々と考えられる。月の捉え方について書かれている部分の【④】～【⑦】からつながりが自然となる箇所を探す。【⑤】が適切。正解⑤
- (2) 「こうして」とあるのでこれまでの内容をまとめる役割をするこの一文の入る位置を探す。「月は～再登場することになる」とあることに注目し、一旦、月への関心が薄まってから、また月に注目が集まる内容を探す。7ページの後ろから3行目に「関心が季節、すなわち太陽の運行へと向けられ、次第に月は見捨てられてしまう」とあり、最後の行には「現代。～それを決める手段としても月の精密な観測が必要となった」とあり、再び月への関心が高まる内容となっている。正解⑦

#### 〔問四〕

- A・・・6ページに「ただ人のみが、時の流れを観念として感じとる。～時の流れを変え、さかのぼるはかない努力をさえる。」と述べていた。不適切。
- B・・・6ページに「七日という天体の運行にもその他の自然の周期にも、全然関係のない人為的周期を作り出して、生活をそれに合わせたりする」、8ページに「本来、天体の運行に何の関係もないヘブライ民族の習慣である週という七日の周期が、そのまま生かされて現代生活の重要な基盤となっている」とある。適切。
- C・・・6ページの前半に「ただ人のみが、時の流れを観念として感じとる」、「人によって、またその時その時によって感じ方それ自体さえ変わる」とある。適切。
- D・・・「自分の身体変化によって時を感じられる」の部分が不適切。6ページ後半に「時とともに自然界のあらゆるものは容赦なく変遷を余儀なくされる。人は時そのものを直接にはではなく、この変遷を見ることにより感じとる～古代に始まり現代にいたるまで、時は自然現象の周期によって定義され測られてきたのである。」とある。この部分と一致しない。
- E・・・6ページに「時の観念の中味、本質のわかりにくさはどうであろう」、8ページに「現在のこよみには～説明のつかない不合理さがかなり残っている」、「古代民族

はいずれもその時代に応じて、あるいは素朴、簡易な、あるいは壮大、精巧な観測装置を考案して正確な暦法を確立するために努力した」とある。適切。

F・・・「現代では一部の人に使われている程度だ」の部分が不適切。8ページに「こよみによってのみ、過去と現代とを結びつけることができるし、また未来の約束をかわしたり、計画をたてたりすることができる。現代人の生活にも絶対に無くてはならぬもの、日常きわめて無視されていながら、その実この上なく大切なもの、ということができようであろう」とある。この部分と一致しない。

G・・・「具体的に感じ取るもの」の部分が不適切。6ページ前半に「人が感じ取る時という観念は、完全に抽象的であり、間接的である」とある部分と一致しない。

以上のことから、B・C・Eの組み合わせであるものを選ぶ。 正解⑥

〔問五〕「流れに棹さす」の意味は、「傾向に乗って、物事の勢いがより前に進むようにすること。」 正解③

〔問六〕9ページに「他に、伊能忠敬が私邸に開いた私立天文台がある。一七九五年建設された深川天文台がそれである。観測結果にもとづき、有名な大日本輿地図作成の大事業が完成したのである。」とある。 正解②

〔問七〕8ページに「こよみの法則つまり暦法で厄介な問題は、天体の運行周期を決定する問題と、端数処理の問題で、共に古代人にとって頭の痛いことであつたにちがいない」とある。この部分に書かれている二点について述べているものを選ぶ。 正解④

〔問八〕7ページの後半に「やがて時代が経って人の知恵が進み、農耕や牧畜のような～生産の時代へ移ると、月ばかりを頼りにする太陰暦の不便さが身にしみてきて、関心が季節、すなわち太陽の運行へと向けられ、次第に月は見捨てられてしまう」とある。この部分の内容と一致するものを選ぶ。 正解②

〔問九〕

(1) 本文内の説明と①～④のすべてが一致している。 正解⑤

(2) 7ページ後半～8ページ前半にあるように、月の観察の記録で完成させたのは、「太陽暦」ではなく「太陰暦」である。 正解③

(3) 8ページ後半に「説明のつかない不合理さがかなり残っているのは、古代民族の習慣がそのままつづけられたためにほかならない。～不合理は不合理と知りつつも、長年の身についた習慣は容易には捨てられないものである。」とある。この部分と一致しない内容である。 正解④

(4) 本文内の説明と①～④のすべてが一致している。 正解⑤